

いちゃい場通信

医療通訳ボランティア養成講座

全7回からなる医療通訳ボランティア養成講座を実施し、30名が参加しました。本講座は、在住外国人が地元の医療機関をこぼの壁などを気にすることなく、安心して医療にかかれる環境整備の一環として実施しております。

事業概要が講義の中心であった第1回に続き、第2回以降は医療機関等の医師や薬剤師を講師としてお招きし、ご講義いただきました。薬剤医療に関する講義では、普段何気なく利用しているドラッグストアや薬に関する基礎知識から、「日本における医薬分業制度」や「ジェネリック医薬品」に関すること、また薬の飲み合わせで体内にどのような影響が及ぶのかなど、実験を通してわかりやすく学ぶことができました。心療内科をテーマとした講義では、外国人に接する際に心がけること等に関することや、ボランティアとして外国人と心療内科受診に帯同するときの注意点を確認しました。救急医療に関する講義では、災害時などの緊急時にどのような流れで活動するのかについて学びました。ボランティアとして緊急と重篤を扱う医療通訳を担うことはありませんが、これまでの国内外での緊急医療支援活動等について様々な事例が紹介され、参加者からは驚きの声が寄せられました。小児科医療に関する講義では、赤ちゃんの不調をどのようにして見極めるかに関して、「けいれん」「吐いた」「お腹が痛い」など様々な状況に応じてご講義いただきました。こばを発することができない赤ちゃんにとって、大切なバイタルサインの1つとして「赤ちゃんの機嫌や活気を確認すること」がいかに重要か、学ぶことができました。

各回の後半に行われた語学講義では英語・中国語・韓国語・スペイン語に分かれ、実際に患者役・医師役・通訳役に分かれてのロールプレイが行われました。英語のクラスでは造影剤検査の流れを想定したロールプレイが行われたり、中国語のクラスでは一連の検診の流れに関する内容を実践するなど、苦戦しながらも参加者は与えられた役割を懸命にこなしていました。

今回、全7回を無事受講した30名が新たに財団の医療通訳ボランティアとして登録されることになります。受講者からは「貴重な1ヶ月でした。せっかく知り合うことができた仲間と離れるのは寂しいですが、さらに知識を深められるよう、がんばります」などの感想が寄せられました。医療現場での在住外国人の支援に向けて、皆さんの今後の活躍を期待しています！



講義・ワークショップの様子



全講義を修了しました！

(公財) 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220 HP: <http://kokusai.oihf.or.jp>



「避難所とは、みなさんが被災された場合、「一時的に」は「住居を借りておられる場所」を指しておられます。単に「たむけに貼るような標識」を使うのではなく、内容の中から最も重要な情報を選択し、単純な構造の文意で伝えることが必要」と日本人が「必死」と前田さんへ依頼したのは手順を知り、慣れておられるところだ。

現在は、インターネットからダウンロードできるという日本語作成支援システム「日本語作成支援」<http://www.spoon.cc/tch/08/cn/picto/JANSI/SI/> の活用が広がっている。

サボター養成

地震の後には津波の危険がある。「避難所に行けば食事も水があり、救助を得ることができる」といった日本人について語りながら知識も、外国人は知らないこと多い。前田さんはその不なじみした状況説明や行動の指示、理由の補足も大切と指摘した。

同じく16年からは「国の現状説明の必要性」を出す。外国人はボランティアを募る。3日まで13人が認定を受けた。やさしい日本語のほか、日本人が多様な国籍の人々による避難所の運営方法を考えるなど、全6回講座を通じて支援ついで学ぶ。

外国語ができなくてできる人は援護はたくさんと相談する。日本人もこのように前の情報をもとに外国人にはわかりやすい英語講義」的確に伝えようとする意識が必要になる。

根本的なことは、防災外国が増えることは、南米の人が手がけることもあろうと強調する。地域や国全体を通して外国人も含めた防犯体制を作ることが地域の安全でも生かされる」と指摘する。

「多文化社会を目指す」とは、防災に強い国を目指す。単体、外国人も市民も互いに歩み、外国人も環境をついていこう」と話した。

外国語絵本読み聞かせ教室

8月5日（日）牧志駅前ほしぞら公民館

3年間、青年海外協力隊を通してスリランカに滞在していた金城宏典さんを講師として招き、スリランカの言語であるシンハラ語での読み聞かせを行いました。まず始めに、スリランカの国紹介をしていただきました。子ども達も一緒にシンハラ語でいくつかあいさつを練習したり、文化についてのクイズなどで子ども達は興味津々の様子でした。読み聞かせでは、「南の島のフルワン」という絵本を読んでいただきました。スリランカの国を想像させるような鮮やかな色使いが特徴の絵本でした。

また英語のアクティビティとして、動物の名前を使った英語のビンゴゲームを行い、会場は盛り上がっている様子でした。



8月19日（日）西原町立図書館

アルセンチンからの留学生の天願さゆりさんと、前回も講師として参加して下さった金城さんの2人を講師として招きました。天願さんには、日本でもおなじみの「はらぺこあおむし」をスペイン語で、金城さんには「ねこのくにのおきゃくさま」という絵本をシンハラ語で読んでいただきました。

日本でもよく読まれている「はらぺこあおむし」をスペイン語で読み、いつもと少し違った雰囲気を楽しみました。

参加した子どもたちが帰る際に「グラシアス!」「イス トゥーティ!」とスペイン語とシンハラ語で「ありがとう!」と講師の方々にお礼を言い、異文化を楽しんでいる様子でした。



8月26日（日）沖縄市立図書館

フランス出身のカスバリアン・ロランさんを講師として招き、フランス語による「おかえりパパ」と「リサとガスパールにほんへいく」の2冊の絵本の読み聞かせをしていただきました。

「リサとガスパールにほんへいく」では外国人が日本へ来て驚いたことなどを表現していて面白い絵本でした。

また、フランスについての文化紹介やクイズなどをして、参加した子どもだけでなく大人も楽しんで、クイズに参加したり、質問をしたりしていました。

遊びに来てくれた皆さんや、読み聞かせにご協力いただきました講師の皆さん、ありがとうございました!



平成30年度下半期 外国語絵本読み聞かせ教室 開催日程

日付	時間	場所
10月21日（日）	11：00～12：00	沖縄県国際交流・人材育成財団
11月23日（金） 11月24日（土）	時間は決まり次第、HPやフェイスブックでお知らせします。	JICAフェスティバルにて
12月16日（日）	11：00～12：00	沖縄県国際交流・人材育成財団

※詳しい内容や読み聞かせの言語などについては、決まり次第HPやフェイスブックなどでお知らせいたします。

ウチナーンチュ子弟等留学生受入事業

平和学習研修

6月23日（土）の慰霊の日、平和学習研修を実施し、午前中は平和祈念資料館の見学、沖縄戦全戦没者追悼式典に参列しました。平和祈念資料館では、沖縄戦の特徴や戦後の沖縄の様子などを学び、また追悼式典に参加した留学生は戦没者に黙とうを捧げたあと、中学生が力強く読み上げた詩「生きる」に心動かされた様子でした。

午後は南風原文化センターを研修会場とし、平和祈念資料館見学を通して学んだ内容をグループで振り返りました。「沖縄戦MAP/年表ワーク」の活動では、沖縄戦の始まりと終わりを沖縄の地図上で確認しながら、沖縄戦の特徴について学びました。

参加した留学生はまとめとして、「共に平和を築いていく仲間達に向けて」、「戦争を起こそうとしている人達に向けて」、「戦争を知らない未来の子どもたちに向けて」の各テーマから1つを選び、意見を交換しました。ディスカッションでは、「誰が勝つ負けるではなく、誰もが何かを失うことは確かである」や「共に平和を築くためには、交流を通してお互いの文化を知り、認めることが大切」などの意見があり、母国における教育を振り返ると共に、戦後を生きる私たちが何をすべきかを考える良い機会となりました。



糸満平和祈念公園にて



ディスカッションの様子

歴史学習研修

8月10日（金）に「歴史学習研修」を沖縄県立博物館・美術館で実施しました。研修前半は、新城俊昭先生（沖縄大学客員教授）を講師としてお招きし、中国や東南アジアとの交易と、大規模移民・戦後から現在までの100年ほどの歴史・文化的な流れ・概要についてご講話頂きました。新城先生の講座を受講後、留学生は博物館の常設展示を見学しました。見学の際、ペン型多言語音声ガイド「音えんびつ」を借用し、琉球・沖縄の歴史を中心に、さらには沖縄の自然史・考古・美術工芸・民俗の中から各自興味のある分野を見学し理解を深めました。講義の最後に沖縄学の父・伊波普猷の「深く掘れ、己の胸中の泉 余所たよて水や汲まぬごとに」が紹介されました。このメッセージをもとに留学生それぞれが目標を明確に、充実した留学生活を送れることを願います。



常設展示にて



集合写真



新城俊昭先生による歴史講座



伊江ビーチにて



畑から収穫したピーナッツ



ドラゴンボート！



初めての牛の餌やり



三線と三板で安里屋ユンタ演奏♪

伊江島民泊研修

9月3日（月）～ 9月5日（水）の2泊3日間、伊江島観光協会が実施している「伊江島民泊」に参加し、沖縄の自然や文化・生活を学ぶ「伊江島民泊研修」を行いました。

伊江島に着くと、伊江島観光協会の方や、受入民家の皆さんに「おかえりなさい」と温かく出迎えていただきました。民泊初日は、民家の方と留学生が一緒に三線で安里屋ユンタの弾き語りをしたり、夕食に餃子を作ったり、城山（伊江島タッチー）に登ったり、ビーチ散策へ行ったりなど、それぞれの民家の方と様々なアクティビティを行い、すぐに馴染んでいる様子でした。

2日目は、海洋研修でシーカヤック体験を予定していましたが、あいにく台風21号の影響で中止となり、代わりにドラゴンボートのマリンアクティビティを行いました。初めてドラゴンボートを体験する留学生も多く、とても楽しんでいる様子でした。

その後それぞれの民家へ戻り、畑で収穫したピーナッツの殻剥き作業やらっきょうの手入れ、牛の餌やりなど、留学生の出身地や、沖縄で大学や研修先では経験する事のない農作業を体験する事ができました。

最終日の離村式では、「伊江島の人々は皆優しく、温かった。伊江島での経験を帰国後も周りの人に話して、自分の国の人たちにも沖縄のこと、伊江島のことを知ってもらいたい」と留学生からあいさつがありました。受入民家の方々からも、「また伊江島に来て欲しい」「私たちも楽しく過ごしました」「また伊江島にきてください」などの激励を受け、短い間ではありましたが、受入民家の方々と留学生の間に絆を築くことができました。

沖縄の自然や文化・生活だけでなく、人と人との繋がりを深く感じる事ができた3日間でした。留学生もこのような経験や絆をこれからの生活や、帰国後の活動に活かしてくれることを願っています。



知念さんグループ



内間さんグループ



島袋さんグループ



また会いましょう！



3日間ありがとうございました◎

おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018

JICA沖縄では県民の皆様の国際協力・交流への理解と参加促進を目的に「おきなわ国際協力・交流フェスティバル2018」を開催します。県内自治体、企業、NPO団体等による活動紹介やワークショップのほか、世界各国の研修員との交流やステージイベント、多国籍屋台など盛りだくさん！ぜひお誘いあわせのうえ、ご来場ください。

日時：11月23日(金・祝) 10:00-17:00
11月24日(土) 10:00-16:00

場所：JICA沖縄

〒901-2552 沖縄県浦添市字前田1143-1

お問い合わせ：JICA沖縄

TEL 098-876-6000



主催：JICA沖縄 共催：沖縄県、浦添市、(公財)沖縄県国際交流・人財育成財団(学財)
協力：浦添市国際交流協会、JICA沖縄事務局、琉球村森林組合(学財)
後援：沖縄県産業委員会、沖縄タイムス社、琉球朝日放送、琉球放送(学財)

【会場・集合地】
JICA沖縄
<http://www.jica.go.jp/okinawa>
JICA沖縄 会場

浦添市字前田1143-1
TEL: 098-876-6000
(担当：迫佐・香純)

会場には駐車場はございませんので、公共交通機関のご利用をお願いします。
タクシー：浦添駅より2.5km
バス：①前田西入口(56系統) ②厚生園入口(13, 25, 33, 57系統) ③国際センター入口(47, 87系統)
※車でお願いします。
サンエー駐車場シティ ④上駐車場をご利用下さい
★シャトルバス(無料)を運行します(15分間隔)
サンエー駐車場シティ ⇄ JICA沖縄



沖縄県ユネスコ協会

「書きそんじハガキ・キャンペーン2019」

書きそんじハガキを集めています。郵便局が発行しているハガキで、文字を間違えたり、印刷の失敗や余ってしまった等ポストに投函できなかったハガキをご寄付ください。

この活動は、世界寺子屋運動の一環です。貧困や紛争等で、教育を受ける機会がなくそのまま大人になり、読み、書きができない人のために、学びの場を支援する活動です。

書きそんじハガキ11枚で約ひとりが1ヶ月学ぶことができます。

昨年は、8,315枚集まりました。ありがとうございました。

日時：2018年12月～2019年2月末日まで

場所：沖縄県ユネスコ協会

(沖縄県教育庁生涯学習振興課内13F)

問い合わせ：Tel 098-866-2745

(沖縄県教育庁生涯学習振興課内)



防 災 関 連 イ ベ ン ト



**非常食
無料配給**

災害時避難所体験会

Experience the Disaster Evacuation Shelter!

共催：
名護市
後援：
名護市国際交流協会

日 時 11月5日（月）9:30～13:00
津波防災の日

場 所 名護市民会館 中ホール
(名護市港2丁目1-1)

参加者募集

大規模災害時に開設される避難所が、どのようなものか体験できます。
お年寄りや小さなお子様がいらっしゃる方、ペットがいる方等ご家族でお気軽にご参加ください。

非常食の試食や、ダンボールペットの設置、お役立ち講座も行います

避難所では様々な問題が
●外国人の対応は？
●ペットはどうする？
●食べ物？
●トイレは？
etc..

平時から備えよう
あなたの参加が地域の防災力に！

当日、直接会場へお越し下さい（申し込み不要）
9時30分から13時の間、自由にご参加下さい

お問い合わせ（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団 国際交流課 葛
TEL: 098-942-9215 FAX: 098-942-9220 Email: kokusai@oihf.or.jp
HP: <http://kokusai.oihf.or.jp> Facebook: www.facebook.com/oihf60

災害時避難所体験会

災害が発災した際に、多くの方々避難する避難所とはどのようなものなのか、ペットや高齢者、赤ん坊や言葉が通じない外国人等、知らない人々と長期間、狭い空間の中で避難所生活をしなければならない中で直面する問題点はどのようなものがあるのか等、考える機会を持って欲しいと思います。どなたでもご参加いただけますので小さなお子様やお年寄り、またペットなどご家族でご参加いただき、災害時の避難所生活がどういふものなのか、実際に非常食を食べたり、防災グッズを体験することができます。

日時：11月5日（月）9：30～13：00

場所：名護市民会館

参加費：無料

申込は不要です。
当日、会場でお待ちしております！

参加者募集

災害時外国人支援 サポーター養成講座

@石垣島

目的

参加者の「防災・減災」や「自助・共助」の意識を高め、また大規模災害時にことばや文化の違いのを持って避難所等で孤立しがちな外国人を支援するためのサポーターを育成します。財団が立ち上げる「多言語支援センター」と協力しながら、避難所巡回を行い外国人の被災状況を確認したり、ライフライン等に関する情報を収集・発信できる人材の育成を図ります。

受講無料

場 所 石垣市立図書館 (石垣市浜崎町1丁目1)

対 象 全日程を受講できる方
★受講に際して、語学力や年齢制限はありません★
★応募者多数の場合、受講できないことがあります★

日程

1日目 11月7日（水）13:00～17:15
2日目 11月8日（木）10:00～17:15
3日目 11月9日（金）10:00～13:00
★講座の内容は、財団HP (<http://kokusai.oihf.or.jp>) をチェック

応募方法 10月21日（日）17時までに財団HP (<http://kokusai.oihf.or.jp>) 内のオンラインフォームから応募下さい。

主催：公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団
共催：石垣市総務部防災危機管理室
協力：一般社団法人石垣市観光交流協会

財団HP QRコード

災害時外国人支援サポーター養成講座

本講座は、参加者の「防災・減災」や「自助・共助」の意識を高め、大規模災害時に財団が立ち上げる「多言語支援センター」と協力し、避難所巡回を行い外国人の被災状況の確認や、ライフライン等に関する情報の収集および多言語発信等を担うことのできる人材を育成し、本県のソフト防災の基盤整備に寄与することを目的に実施します。応募対象者は全講座（3回）を全て受講することができる方とします。また、全講座を全て受講された方は、当財団の「災害時外国人支援サポーター」として認定します。

日程：11月7日（水）13：00～17：15

11月8日（木）10：00～17：15

11月9日（金）10：00～13：00

場所：石垣市立図書館

参加費：無料

応募方法：参加希望者は、オンラインフォームに必要事項を全てご入力し申請してください。
(財団ホームページをご覧ください。)

応募締切：10月21日（日）17時（必着）

語学力は問いません。
どなたでもご応募ください！





沖縄の防災を考える

平成30年度 災害危機管理シンポジウム



開催趣旨：

本県では在住外国人数が1万4,000人を越え、その国籍も118カ国に及ぶなど、地域住民と居住する外国人の背景は多様化する傾向があります。加えて本県に来県する外国人観光客に関して、クルーズ船の寄港や那覇空港週間就航便数の増加に伴い200万人を越え、増加の一途を辿っています。

このような状況の中、島嶼地域である沖縄県で大規模災害が発生した場合には、どのような対応がとれるのか。もし、島が孤立し、しばらくの間、他県からの応援が得られないとすると我々はどういうことに備えるべきなのか。そして、災害時における地域住民及び外国人の支援体制をどのように整備すべきなのか。

本シンポジウムは、ソフト防災の環境整備に向けて、関係機関との平時からの協働態勢を構築し、また産・学・官のそれぞれのセクターから講師をお招きし、基調講演やパネルディスカッションを通して見出される災害危機管理上の課題や、その対応策について考える機会を持つことを目的に実施されます。



主催/お問い合わせ：（公財）沖縄県国際交流・人材育成財団 TEL：098-942-9215 FAX：098-942-9220
内容の詳細や参加申し込み方法は、財団HP(<http://kokusai.oihf.or.jp>)でご確認ください

★参加者の募集は、11月初旬からHPで行います★

お問い合わせ先：沖縄県国際交流・人材育成財団（担当：葛・長濱）

TEL 098-942-9215

E-mail [address kokusai@oihf.co.jp](mailto:kokusai@oihf.co.jp)

Homepage <https://kokusai.oihf.or.jp/>

沖縄 震度7



写真：仙台市提供

沿岸部津波で壊滅

日時：2019年1月18日（金）
13:15～16:30（受付12:45～）

場所：沖縄産業支援センター 中ホール

基調講演 福和 伸夫氏

名古屋大学大学院環境学研究科教授

名古屋大学減災連携研究センター センター長

基調講演の他、有識者によるパネルディスカッションを行います

賛
助
会
員
募
集
！

公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団（略称「OIHF」）は、本県の多文化共生社会の推進に寄与し、振興発展を担う人材育成事業や、国際性豊かな活力ある沖縄づくりを目指し、国際交流・協力事業を推進しております。当財団の趣旨や活動に賛同し、活動を支援して下さる、賛助会員を募集しています。沖縄県国際交流・人材育成財団の事業は会員の皆さまの支援によって支えられています。皆様のご協力をお願いいたします。

【年会費】 個人：3,000円 団体：10,000円

★お申し込み・お問い合わせは国際交流課まで★

TEL:098-942-9215 FAX:098-942-9220

E-mail:kokusai@oihf.or.jp

